



10年先を見据えて

Vol. **2**

農業所得の向上へ、難しい課題が多い時だからこそ、10年先を見据えて新たな挑戦を始める担い手がいる。その夢やプランの実現をTACが支援し、未来と一緒に切り拓く活動が広がってきた。園芸振興や農業法人の育成に奮闘する2JAの取り組みをレポートする。

TACの活動内容は
こちらから



TAC(タック)とは、『**地域農業の担い手に出向くJA担当者**』の愛称です。

☐ 秋田県 JA秋田ふるさと

☒ 福岡県 JAふくおか八女



▼見渡す限りの茶園で、野上代表理事⑤と法人の将来について思いを巡らせるTACの安德係長(右)④

▼共同組合の直売所で、来店者に、こだわりの茶を勧める女性スタッフ⑥

▼茶の製造工場の高額な機械を計画的に更新することも、経営課題の一つだ⑥

「経営課題を見える化し、組合員の意識改革を促したい」と農事組合法人八女中央茶共同組合、野上久義代表理事は思った。共同組合は23戸から成り、所属する20～30代の若手は10人。農林水産祭の天皇杯を受賞したほどの優秀な組織だが、荒茶の販売価格が低迷し、製茶工場の高額な機械の更新費用が経営に重くのしかかっていた。若者がこれからも夢を持って茶生産を続けられるように——。10年先を見据えたTACとの連携が始まった。

経営課題“見える化”で将来像明確に

JAふくおか八女営農指導部TACの安德和彦係長は、法人に足繁く通う中で同じ問題意識を抱いていた。共同組合の経営課題を①担い手不足による面積の減少②定期的に機械の更新が必要なこと③資金の問題——の3つと捉え、「将来像を明確に打ち出し、組合員で危機感を共有しなければ厳しい環境を乗り越えられない」との思いから、「法人の10年運営プラン」の作成に乗り出した。

はじめに、各組合員へ経営意向調査を実施し、就農可能期間、後継者の有無、栽培面積などを調べた。さらに、製茶工場にある200台もの機械の耐用年数、茶の売上計画や今後見込まれる資金需要などをすべて洗い出して一覧にまとめ、10年にわたる組合員、機械、金の動きを“見える化”した。他部門や、県とも連携して0から作り上げた、この10年プラン

は、完成までに3年掛かった。

共同組合ではプランを基に、工場の機械の更新を計画的に進め、将来的には担い手に園地を集約して作業を効率化し、生産量と高い品質を維持する青写真を描いた。

意識改革果たし、地域にプラン波及へ

効果はすぐに表れた。経営意向調査をきっかけに多くの家庭で事業承継について話し合われた他、離農した農家の園地もスムーズに移行できた。共同組合の経営課題を共有したことで、組合員全体の意識改革にもつながった。若手農家の発案から、品質に直結する摘採の方法を統一したり、

生活者目線で他産地と品質を比べる「利き茶大会」を開いたりするなど、「ブランド維持のためにできるだけ事をしようと、ベテランも若手も一つになった」と安德係長は変化を実感する。JAにとっても、共同組合の資金のニーズを把握できたおかげで、融資の相談に的確に応じられるようになった。

JAはこの事例をモデルに、2016年度から10年プランを土地利用型作物を生産する法人など、管内全体に広げる計画だ。「まだスタートラインに立ったばかり。今後10年プランを営農指導や経営支援に生かしながら、地域農業を支えていきたい」と、JAの下川茂利営農指導部長は力説する。



TACの役割

①地域農業の担い手に訪問してご意見・ご要望をうかがい、誠実にお応えします。

②地域農業の担い手の経営に役立つ各種情報をお届けします。

③地域農業の担い手のご意見を持ち帰り、JAグループの業務改善につなげます。

TACの由来

Team for Agricultural Coordination
JAグループが一体となって地域農業をコーディネートします。

Tとことん、**A**会って、**C**コミュニケーション!!

営農販売企画部 TAC推進課
TEL: 03-6271-8276

全農